

■ 編集だより

編集後記

先日、息子が面白そうだから一緒に見ようと言って、TAXi 4のDVDをレンタルして来た。タクシーシリーズは、リュック・ベッソン制作・脚本、ジェラルド・ピレス監督によって製作された、フランス映画としては珍しい(?)コメディ感覚を備えたカー・アクション映画である。プジョー・406の改造車でタクシー運転手をしているスピード狂のダニエルと、運転が全く駄目でちょっとドジな刑事のエミリアンがコンビになって、難事件を解決していくストーリーで、第4作まで製作されている。TAXi 2では独特の日本人描写も取り入れられている。TAXi 4ではプジョーも407にバージョンアップし、さらにそれぞれの主人公に似たような息子もでき、相変わらず面白く愉快で、家族一同大笑いだった。第1作はフランスワールドカップが開催された1998年に公開されている。なぜこの話を取り上げたかという、偶然にもちょうどその頃私はパリに留学していて、パリ14区のアレジア駅周辺の映画館で見た記憶が、ワールドカップのフランス優勝の歓喜と共に鮮明に甦り、非常に懐かしく覚えたからである。ただ当時息子はまだ妻のお腹の中にいたのだが……。

いわゆるフランス映画というのは極めて情緒的なものが多い中、このようなコメディタッチのアクション映画が果たしてフランス人に受けるのであろうかという疑問が、公開前は随分心配されたらしい。ところが予想外(?)の大ヒットになり、映画館でも皆大爆笑だった。そのため、タクシー運転手は女性という設定だが、ハリウッドでもリメイクされて、TAXINYとしても公開されている。フランス人は母国を非常に誇りに思っているが、移民も多く、独自性と国際化をバランスとりながらやっているなあという印象だった。実際はいろいろな大変な面もあるようだが……。

ご存知のとおり、今年の2月から様々な歴史を乗り越えて、日本精神神経学会の英文誌としての新装 Psychiatry and Clinical Neuroscience Vol. 62, No. 1 が刊行されている。是非とも日本精神神経学会の国際化も併せて、アジアから発信する中心的な精神医学雑誌として発展してもらいたい。同時に、100年の歴史を持つ精神神経学雑誌(和文誌)も当然ながら英文誌の影響を受けると思われるが、今までの特徴を活かしつつ、相互にバランスをとりながら変革していくことに、編集委員の一員として微力ながら寄与していきたい。

伊藤千裕

次号予告 第110巻第7号

岡崎祐士：【巻頭言】「精神科医療政策に関する委員会」について

島袋 仁・他：【精神医学のフロンティア】軽度アルツハイマー型認知症患者に見られる行動・心理学的症状の特徴

近藤直司・他【資料】地域精神保健・児童福祉領域におけるひきこもりケースへの訪問支援

【第103回総会】

シンポジウム3：各国の状況：女性医師の状況を中心に（4題）

黒田重利：【教育講演】検査所見・病理は語る—DLB例の経験から—

中村 祐：【専門医のための特別講座】アルツハイマー型認知症の診断と治療

兼本浩祐：【専門医のための特別講座】精神科におけるてんかん診療

精神神経学雑誌百年（第七巻第四号 明治41年7月5日発行）

PCN だより Vol. 62-3（その2）